

‘ Billion ’ と ‘ Trillion ’ の用法について

その他のタイトル	The Usage of "Billion" and "Trillion"
著者	中間 敬弑
雑誌名	関西大学商學論集
巻	37
号	3-4
ページ	511-551
発行年	1992-10-25
URL	http://hdl.handle.net/10112/00019827

‘Billion’ と ‘Trillion’ の用法について

中間敬式

1. はじめに

数を表す語 *billion* と *trillion* の用法は、米英において、意味上、差異がある、あるいは、差異が存在した。その差異とは、*billion* が米国では〈10億〉を表すのに対して、英国では10億の千倍の〈1兆〉を表す、もしくは、表した、また、*trillion* は、米国では〈1兆〉を表すのに、英国では1兆の100万倍の〈100京〉(けい)を表す、あるいは、表した、ということである。

本小論は、*billion* と *trillion* の現代における米英の用法について考察するものである。では、先ず、*billion* と *trillion* の意味の違いを、*ISED* (1942)¹⁾ に与えられているそれぞれの語の定義に基づいて表にまとめてみよう。

表1

	Billion	Trillion
米 国	1,000,000,000 (a thousand millions ²⁾ (in France and U. S. A.) (10億) 10^9	1,000,000,000,000 (a million million) (in France and U. S. A.) (1兆) 10^{12}
英 国	1,000,000,000,000 (a million millions ²⁾ (in England ³⁾ and Germany) (1兆) 10^{12}	1,000,000,000,000,000,000 (a million million million) (in Great Britain) (100京) 10^{18}

1) A. S. Hornby, E. V. Gatenby and A. H. Wakefield, *Idiomatic and Syntactic English Dictionary* (Kaitakusha) (1942) [*ISED*]

2) Million は数詞または数量詞が付く場合, two million(s), several million(s)

さらに、*ISED* と *ALD* (1963) の定義に基づき、数を表すために並べられた数字の位置の名を、米用法と英用法の *billion*, *trillion*, *quadrillion*⁴⁾ と漢数字の数詞で表し、倍数を付加すると次のようになろう。

表 2

1, 000, 000, 000, 000, 000, 000, 000, 000, 000									
:	:	:	:	:	:	:	:	:	:
:	:	:	:	:	:	:	:	:	千 百十一
:	:	:	:	:	:	:	:	:	千 百 十 一
:	:	:	:	:	:	千 百 十	一 万 万	万 万	
:	:	:	千 百 十	一 億 億 億	億	:	:	:	
:	千 百 十	一 京 京	京 京	:	:	:	:	million	
一 垓 垓 垓 垓	垓	(けい)	:	:	:	:	:	10 ⁹	
秭 ⁵⁾	(がい)	:	:	:	:	:	:	billion (France ⁶⁾ & USA)	
(じよ)	:	:	:	10 ¹²	:	:	:	milliard (Britain)	
:	:	:	:	:	:	:	:	trillion (France ⁶⁾ & USA)	
:	:	:	10 ¹⁵	:	:	:	:	billion (England & Germany)	
:	:	10 ¹⁸	:	:	:	:	:	quadrillion (France ⁶⁾ & USA)	
:	:	:	:	:	:	:	:	quintillion(USA)	
10 ²⁴	:	:	:	:	:	:	:	trillion (Great Britain)	
septillion(USA) ⁷⁾	:	:	:	:	:	:	:		
quadrillion (Great Britain)	:	:	:	:	:	:	:		

のように、時に s を付けて複数にする。Evanses も *DCAU* (1957) の *billion* の項で、a thousand millions と a thousand million の両方を用いている。しかし、表の trillion の定義の a million million に合わせて、単数にするほうがよいと考えられる。Cf. millions of people; thousands of books;

- 3) England とは *ISED* が the largest division of Great Britain と定義しているように、厳密には Great Britain 島の南部、すなわち、北部の Scotland と南西部の Wales を除いた部分、を指すので、trillion の定義にある Great Britain とするほうがより正確であろう。
- 4) 同語は *ISDE* に載せられていないので、同じ著者による *The Advanced Learner's Dictionary of Current English* (Kaitakusha (1963) [*ALD*]) に拠った。
- 5) または、秭 (し)。『世界大百科事典』は1981年版では「秭」としていた(第16巻「数詞」参照)が、1988年版では「秭」に変え(第14巻「数詞」参照)、「秭」は挙げていない。『国語大辞典 言泉』(1986)は「秭」とし、「秭」はかっこ書きしている

表1, 2が示すように, *ISED* は, *billion* は, フランスと米国では a thousand millions (1,000,000,000) <10億> であるが, 英国とドイツでは a million millions (1,000,000,000,000) <1兆> である, *trillion* は, フランスと米国では a million million <1兆> であるが, 英国では a million million million (1,000,000,000,000,000,000) <100京> であると定義している。さらに, *Quadrillion* に関して, *ISED* (1942) は載せていないが, その姉妹辞書ともいふべき *ALD* (1963) は同語を挙げ, *Gt. Brit.* では fourth power of one million (1 followed by 24 ciphers) <1矜> とし, *U. S. A. and France* では fifth power of one thousand (1 followed by 15 ciphers) <千兆> と定義している。

2. *Billion* と *Trillion* に関する辞書や参考書の記述 (1)

次に, *billion* と *trillion* の用法に関して, 既に挙げた3の *ISED* と同様の定義を与えている辞書および語法の参考書や研究書の名前を年代順 (1884—1989) に挙げ, また, *OED* については, これらの語の定義を代表的な例として挙げ, 考察を進めたい。

1. *The Oxford English Dictionary*. 10 vols. (Oxford Univ. Press) (1884-1928) [*OED*]

Billion (語源に関する記述は省略)

1. In Great Britain: A million millions (=Fr. *trillion*.)

1690 ... a1711 ... 1778 ... 1870 ... (用例省略)

(「位」参照)。『日本国語大辞典』[縮刷版] (1980) は, 「矜」は「 10^{24} にあたる」, 「秭」は「1億の1億倍。一説に1億の1万倍」と定義している (第5巻 pp. 335, 1126 参照)。すなわち, 同辞典によると, 矜は 10^{24} であるが, 秭は, 矜と同じ数ではなく, 10^{16} と 10^{12} の二つの値があるということになる。

- 6) フランスは1948年以降, 米と同じ用法であった *billion* <10億> と *trillion* <1兆> の意を英用法の *billion* <1兆> と *trillion* <100京> に変更した。(「7. 仏語 (仏国) における *Billion* と *Trillion*」の項参照。)

- 7) 同語は *ISED*, *ALD* には載せられていないので, *COD*⁵ (1964) に拠った。

2. In U. S. (as in France) : A thousand millions.

1864 See WEBSTER, S. V. *Numeration*.

Trillion (語源に関する記述は省略)

The third power of a million ; a million billion, i. e. millions of millions. (In France and local U. S., a thousand 'billion', i. e. an English billion : see BILLION.) 1690 ... 1696 ... 1706 ... 1802 ... 1806 ... 1867 ... (用例省略)

2. H. C. Wyld, *The Universal Dictionary of the English Language*. (Routledge & Kegan Paul) (1932) [UDEL]
3. A. S. Hornby, E. V. Gatenby and A. H. Wakefield, *Idiomatic and Syntactic English Dictionary*. (Kaitakusha) (1942) [ISED]
4. Bergen Evans and Cornelia Evans, *A Dictionary of Contemporary American Usage*. (Random House) (1957) [DCAU]
5. Margaret Nicholson, *A Dictionary of American-English Usage*. (OUP) (1957) [DAEU]⁸⁾
6. *Webster's Third New International Dictionary of the English Language*. (Merriam) (1961) [Webster's³]
7. A. S. Hornby, E. V. Gatenby and A. H. Wakefield, *The Advanced Learner's Dictionary of Current English*. (Kaitakusha) (1963) [ALD]
8. *The Concise Oxford Dictionary of Current English*, 5th Edition. (OUP) (1964) [COD⁵]
9. H. W. Fowler, *A Dictionary of Modern English Usage*, 2nd Edition. Revised by Sir Ernest Gowers. (OUP) (1965) (1983 with

8) 本書の trillion の頃の定義 (p. 600) "trillion. In US & Fr., 1000 millions; in Brit. & Ger., a million millions." とは billion に対するもので間違いである。従って, "trillion. In US & Fr., a million million; in Brit. & Ger., a million million million." と書き換えられねばならない。

corrections⁹⁾ [MEU²]

10. *The Random House Dictionary of the English Language*. (Random House) (1966) [Random]
11. Dr. Ernest Klein, *A Comprehensive Etymological Dictionary of the English Language*. Volumes I, II (Elsevier Publishing) (1966-1967)
12. Jerome Shostak, *Concise Dictionary of Current American Usage*. (Washington Square Press) (1968) [CDCAU]
13. *The American Heritage Dictionary of the English Language*. (American Heritage) (1969) [Heritage]
14. *The Penguin English Dictionary*, 2nd Edition. (Penguin Books) (1969) [PED²]
15. Norman Moss, *What's the Difference? An American/British British/American Dictionary*. (Hutchinson) (1973) [WTD]
16. A. S. Hornby, *Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English*, 3rd Edition. (OUP) (1974) [OALD³]
17. *The Concise Oxford Dictionary of Current English*, 6th Edition. (OUP) (1976) [COD⁶]
18. *Macmillan Contemporary Dictionary*. (Macmillan) (1979) [Macmillan]
19. *The American Heritage Dictionary*, 2nd College Edition. (Houghton Mifflin) (1982) [Heritage²]
20. *The Encyclopedia Americana*. Volumes 3 and 27. (Grolier)(1987)

9) 1965年版の billion の項では, It should be remembered that this word does not mean in American use (which follows the French) what it means in British. としていたが, 1983年の訂正版では, It should be remembered that this word does not mean in American use what it means in British and (since 1948) French use. とし, 1948年以來, フランス用法が, 英用法と同じになっていることを示している。注6) 参照。

[Americana]

21. A S Hornby, *Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English*, 4th Edition. (OUP) (1989) [OALD⁴]

上に挙げた 1, 2 と 4-21 の辞書や参考書における *billion* と *trillion* の定義は, 表 1, 2 の基礎になっている 3 の *ISED* に挙げられている定義と基本的には同じである。最も新しい 21 の *OALD⁴* (1989) においても, 同辞典の前の版の *OALD³* (1974) と同じく, 本来の英国用法がそのまま記述されている。すなわち, *billion* は, 米国では〈10 億〉であるが, 英国では〈1 兆〉である, *trillion* は, 米国では〈1 兆〉であるが, 英国では〈100 京〉(けい)である, と。

では, ここで, *billion* 以上の数の呼称が米英でどのように異なっているか見ることにしよう。*Webster's³* (1961) は, 米英の百万 (*million*) を超える数の呼称に関して, *number* の項で *American system* と *British system* に分け, 別々の表でそれぞれの数の呼称について記述しているが, それらを一つの表にまとめると次頁のようになろう。

同表が示すように, *billion*, *trillion* や, その他の上位の語の表す数が大西洋を隔てて位置するそれぞれの英語国で大きく異なっている。すなわち, *billion* は, 米国では 10^9 であるが, 英国では 10^{12} である, *trillion* は, 米国では 10^{12} であるが, 英国では 10^{18} である。さらに, *quadrillion* は, 米国での 10^{15} に対して, 英国では 10^{24} である。

このような違いは, 米英のコミュニケーションにおいて誤解を生じる元になるということはないのであろうか。誤解に関して, *Evanses* (1957, p. 63) は, *billion* の項で次のように述べている。

“Fifty years ago the difference of meaning attached to the word by the two countries was purely a theoretical matter, but today, when a billion seems to be the basic unit of government expend-

DENOMINATIONS ABOVE¹⁰⁾ ONE MILLION

NAME	VALUE IN POWERS OF TEN	
	<i>American system</i>	<i>British system</i>
milliard		10 ⁹
billion	10 ⁹	10 ¹²
trillion	10 ¹²	10 ¹⁸
quadrillion	10 ¹⁵	10 ²⁴
quintillion	10 ¹⁸	10 ³⁰
sextillion	10 ²¹	10 ³⁶
septillion	10 ²⁴	10 ⁴²
octillion	10 ²⁷	10 ⁴⁸
nonillion	10 ³⁰	10 ⁵⁴
decillion	10 ³³	10 ⁶⁰
undecillion	10 ³⁶	10 ⁶⁶
duodecillion	10 ³⁹	10 ⁷²
tredecillion	10 ⁴²	10 ⁷⁸
quattuordecillion	10 ⁴⁵	10 ⁸⁴
quintodecillion	10 ⁴⁸	10 ⁹⁰
sexdecillion	10 ⁵¹	10 ⁹⁶
septendecillion	10 ⁵⁴	10 ¹⁰²
octodecillion	10 ⁵⁷	10 ¹⁰⁸
novemdecillion	10 ⁶⁰	10 ¹¹⁴
vigintillion	10 ⁶³	10 ¹²⁰
centillion	10 ³⁰³	10 ⁶⁰⁰

10) *Webster's*³ が, *above one million* における *above* を, *exceeding in number, quantity, or size: more than <men above 50 years old>* と, また, *COBUILD* が, *If an amount, measurement, rate, or level is above a particular figure or level, it is greater than it.* と定義しているように, *above one million* とは *more than one million* あるいは *greater than one million* すなわち, 「百万を超えている」の意であり, *than* の次におかれる *one million* は含まれない。従って, 上表に *million* は挙げられていない。Above に対して, 日本語の「百万以上」の「以上」には「百万」が含まれるので, “above~” と「…以上」とイコールではない。『研究社大和英』は「以上」の項で, [その数を含まない] との注記の後に, *over; above; above; more than; upward(s) of.* を挙げ, さらに, 「6歳以上の小児」の訳例として *children of 6 years and upward [up]; children from 6 years up; children, six years and over; children over six years old* を挙げ,

iture, it must caust considerable misunderstanding and our appropriations must seem even more startling to the ordinary Englishman than they do to us.”

また、Fowler (初版 1926 ; 1965, p. 60) も次のように述べている。

“Since *billion* in our sense is useless except to astronomers, it is a pity that we do not conform.”

アメリカ人の Evanses が〈50年前には、米英両国がそれぞれ同語に与えている意味の違いは、単に、理論の上で存在するに過ぎなかった〉と述べているように、*billion* は、今世紀初頭には、単に理論上存在する数で、現実とは遊離したものに過ぎなかったので、米国の〈10億〉に対して、英国の〈1兆〉という同語が表す数の違いが問題になることはほとんどなかったであろう。しかし、Evanses は、さらに〈*billion* が政府の歳出額の基本単位になっているように思える今日、同語は少なからず誤解を引き起こすに違いない〉と述べているが、それ以来、35年、20世紀初頭からは90年以上を経た現在、経済面でもインフレのため、国家予算などに用いられる金額の桁も一層大きくなり、*billion* の使用が増えてくると、また、お互いの情報が瞬時に相手に届く時代を迎えて、マスメディアの発達もめざましく、それに伴って、両国間のコミュニケーションもあらゆる分野でより幅広く、密になってくると、そのような相違が誤解を生じる元になることは大いにありうるであろう。

最後の用例には「(6歳を含まない)」との注記をしている。Above の用法に関して、Harrap's (1990) は *Above or below should not be used to mean more than or less than when referring to specific quantities (e. g. write “more than 20km” or “less than 3cm”); but “above/below zero, boiling point, etc” is correct.* と述べている。すなわち、用例にある 20km や 3cm のような明確な数量に言及する場合は、*above* より *more than* を用いるほうがよいということである。さらに、*mor than...* と「以上」の違いについて、長野格他著『商業英語クエスチョン・ボックス』(大修館書店 1983) pp. 212-213 参照。

イギリス人の **Fowler** も〈英国の *billion* (1兆) とは、天文学者以外には無意味な語で、英国が米国に合わせて同語を〈1兆〉ではなく〈10億〉の意で用いないのは遺憾なことである〉と述べている。また、**Copperud** (1980) も〈*billion* がふつうに用いられるようになっている今日、米国、フランス、ドイツと、英国ならびに言語の面で英国に倣う国々との間には同語の用法に意味の違いがあるのは遺憾なことである〉と述べている。このような記述は同じ語でありながら、英米でそれぞれ表す **value** が異なることに対する懸念の現れであると言えよう。

では、*billion, trillion* の語が実際にはどのように用いられているのか用例を通して考察することにしよう。

3. *Billion* と *Trillion* の用例

先ず、上の考察に基づいて、一会社の規模を英用法と米用法ではどのように表すか考えてみよう。例えば、ダイエーの規模を朝日新聞 (1992年5月22日夕刊1面) は次のように報じている。

資本金	売上高 (九二年二月期)
三百六十六億一千三百万円	二兆二百五十九億二千万円
(¥ 36, 613, 000, 000)	(¥ 2, 025, 920, 000, 000)

既に見たように、*billion* は英用法では1兆、米用法では10億、*trillion* は英用法では100京、米用法では1兆である。従って、上の資本金、売上高の数字を、英用法では、**thirty-six thousand six hundred and thirteen million yen** と **two billion twenty-five thousand nine hundred and twenty million yen** と読むが、米用法では、**thirty-six billion six hundred and thirteen million yen** と **two trillion twenty-five billion nine hundred and twenty million yen** と読むことになる。

では、下記用例に見られる今日の英字新聞に用いられている *billion* は英用法の〈1兆〉か、または、米用法の〈10億〉か。

- a. Japan's world trade surplus increased by 50 percent in calendar year 1991 from the previous year to total \$78.233 *billion*, the third largest figure in the country's history and the first rise since 1986, the Finance Ministry said Tuesday.

—*The Daily Yomiuri*, January 22, 1992, p. 1

本用例の内容と同様の『朝日新聞』の記事（1992年1月22日付朝刊1面）は次のように報じている。

「大蔵省が二十一日発表した昨年一年間の貿易統計（通関速報）によると、輸出額から輸入額を差し引いた貿易黒字額は前年比五〇・〇％増の七百八十二億ドルで、五年ぶりに増加に転じ、史上三番目の黒字額となった。」

このことから明らかなように、\$78.233 *billion* の *billion* とは米用法の〈10億〉であって、英用法の〈1兆〉ではない。従って、\$78.233 *billion* とは、782億3千3百万ドルである。わが国の英字新聞は、同語を米用法に倣って用いているということになるが、英国の新聞の場合はどうであろうか。次に、イギリスの新聞報道を見ることにしよう。

- b. But the daunting surplus—at \$78.2bn, not far below the 1986 record of \$82.7bn and a 50 per cent increase on 1990 —reflects fundamental changes in Japan's trading patterns.

—*Financial Times*, January 23, 1992, p. 4

本用例は、英国の *Financial Times* 紙が用例 a と同じ内容を報じた記事である。その中の \$78.2bn = \$78.2 *billion* (782億ドル) や \$82.7bn = \$82.7 *billion* (827億ドル) が示すように、英国においても *billion* が英用法の本来の〈1兆〉ではなく、米用法の〈10億〉の意で用いられていることが理解できよう。そして、もし、*billion* が英本来の〈1兆〉の意で用いられて

いるとしたら、\$78.2 *billion* とは 78兆 2千億ドルということになり、782億ドルは、\$78,200 *million* または \$78.2 *billiard* と表すことになろう。

では、イギリスの代表的な日刊紙 *The Times* は *billion* をどのように扱っているだろうか。

- c. January's deficit on visible trade, which excludes so-called invisible items such as banking, insurance and tourism, was £1.1 *billion*, up from £700 million in December. The value of exports fell 7.5 per cent to £8.3 *billion* and that of imports was down 3 per cent to £9.4 *billion*.

—*The Times*, February 28, 1992, p. 17

本用例の £1.1 *billion*, £8.3 *billion*, £9.4 *billion* とは、*Economic Trends* 誌に挙げられている統計の数字¹¹⁾からも明らかなように、それぞれ、11億ポンド、83億ポンド、94億ポンドの意である。このことから、*The Times* 紙も、*billion* を英国本来の〈1兆〉ではなく、〈10億〉の意で用いていることがわかる。

- d. Mr Bush asked Congress to approve a \$12 *billion* (£7 *billion*) US commitment to the International Monetary Fund so that it had the resources to give the republics loans, up to \$3 *billion* towards an international rouble-stabilisation fund, and the repeal of scores of Cold War trade restrictions.

—*The Times*, April 2, 1992, p. 1

本用例は Bush seeks £7bn in aid for former Soviet Union という見

11) CENTRAL STATISTICAL OFFICE: *Economic Trends* No 459 January 1992 参照。

出しで始まる記事の第 2 パラグラフで, \$12 *billion* (£7 *billion*) とは, それぞれ, 120億ドルと 70億ポンド¹²⁾ である。そして, *billion* は用例 c の場合と同じく, <10億> の意で用いられているが, これらの数字を, 英本来の用法, すなわち, *Billion* = 1兆に従って表すと, \$12,000 million (twelve thousand million pounds = 120億ドル) と £7,000 million (seven thousand million pounds = 70 億ポンド) あるいは \$12 milliard と \$7 milliard になる。

既に考察したように, *trillion* の米用法は <1兆> であるが, 英用法は <100京> である。では, 次例において, 英字新聞が報じる政府予算案の金額の *trillion* は米用法の <1兆> か, あるいは, 英用法の <100京> か。

e. Govt OK's ¥72 *Tril.* Budget

ODA Up 7.8%, Defense 3.8% In Austere Spending Plan

The government gave final approval Saturday to the ¥72.218 *trillion* fiscal 1992 budget, which includes a brisk 7.8 percent increase in official development assistance (ODA) and a 3.8 percent increase—the lowest in 32 years—in defense spending.

—*The Daily Yomiuri*, December 29, 1991, p. 1

本用例の ¥72.218 *trillion* とは, 米用法に倣えば 72兆2,180億円であるが, 英本来の用法に従うと, 米用法の 100万倍の 7,221京8,000兆円になる。しかし, 『朝日新聞』1991年12月29日付朝刊 1面が「一般会計72兆2,180億円」と報じていることから明白なように, 本用例の *trillion* とは米用法の <1兆> であり, 英用法の <100京> ではない。従って, ¥72.218 *trillion* とは 72兆2,180億円であるということになる。

12) 同日の *The Times* 紙 (April 2, 1982) の CURRENCIES 欄 (p. 21) によると, £1 = \$1.7249 (London) である。

- f. But even these enormous cash injections are still dwarfed by the potential write-offs of bad debt. Japanese banks are not obliged to publish figures revealing the extent of their bad or doubtful debt, but analysts' estimates of the combined bad debts of the 11 city banks range up to ¥20 trillion (£87 billion).

—*The Times*, April 10, 1992, p. 21

英国の *The Times* 紙に見られる本用例の *trillion* も、イギリスで長らく用いられてきた本来の〈100京〉ではなく、米用法の〈1兆〉の意で用いられている。従って、¥20 *trillion* とは、20兆円であり、英ポンドに直すと870億ポンドということになる¹³⁾。そして、本来の英用法では *billion* が〈1兆〉であるから、¥20 *billion* (£87,000 million または £87 milliard) とするところである。

最後に、イギリスの代表的な経済週刊誌 *The Economist* から *billion* の用例を挙げ、それを通して現代の英国における *billion* の用法について考察することしよう。

- g. THIS Sunday as many as 1 *billion* people will be wathing the highest drama of the closest thing there is to a world game.

—*The Economist*, July 7 1990, p. 11

表1, 2によると、英国における *billion* とは〈1兆〉である。また、先に見た1—21 (1884—1989) の辞書や参考書に挙げられている同語の定義も〈1兆〉である。それらに従うと、本用例の 1 *billion* people とは「1兆の人々」ということになるが、世界全体の人口でさえも、せいぜい50数億人であるから、本用例の 1 *billion* が本来のイギリス用法の〈1兆〉であるとは考えられない。この 1 *billion* とは、既に見た用例 a, b, c, d における *billion*

13) 同日の *The Times* 紙 (April 10, 1992) の CURRENCIES 欄 (p. 21) によると、£1=Yen233.18 (London) である。

と同じく、米用法の〈10億〉の意である。従って、*The Economist* 誌も *billion* を〈1兆〉ではなく〈10億〉の意で用いていることが明らかであろう。

4. *The Economist* 誌における *billion*

Billion とは、1—21 (1884—1989) の辞書や語法参考書の定義によると、英用法では〈1兆〉、米用法では〈10億〉の意である。しかし、このような定義にも拘らず、英国の現代の新聞・雑誌からの用例 **b, c, d, g** が示すように、英国においても、同語は英本来の〈1兆〉ではなく、米用法の〈10億〉の意で用いられるようになってきていることがわかった。

前項の用例 **g** が示すように、*The Economist* 誌は *billion* を〈1兆〉ではなく〈10億〉の意で用いていた。同誌は、*billion* の用法に関して、筆者の1990年8月27日付けの問合せ状に対して、同社 **Research Department** の1990年9月14日付けの書状で、次のように回答している。

“Thank you for your obvious regard for and interest in *The Economist*. Please find inclosed¹⁴⁾ a copy of a letter that was published in *The Economist* in July this year explaining our use of the word billion. As you can see we use the American definition in common with the UK Central Statistical Office and the Treasury. As far as we can ascertain this has always been the practice of *The Economist*.”

14) Please find inclosed...は、You will find enclosed...と共に、語法研究者に〈使い古された陳腐な表現の一つで、現代の通信文にはふさわしくない〉と排斥されているにも拘らず散見される。単に、Enclosed is a copy of ... か We enclose a copy of ...とする所であろうが、そうすると please ...という丁寧な語感が失われ、そっけない感じを与えるので、同表現が今でも用いられるのであろう。Cf. 拙著『商業英語の語法』(大修館書店) pp. 200-201.

本状の内容から、*The Economist* 誌は *billion* の用法に関して、英国本来の〈1兆〉ではなく、米国の定義である **one thousand million** (10億) の意で用いており、それは英国中央統計局¹⁵⁾や大蔵省と共通の用法である、また、同用法が同誌の永年にわたる慣行であることが理解できる。なお、筆者の質問項目の中にあつた *trillion* の用法についてはなんら言及していない。また、*billion* は〈10億〉の意ではいつ頃から用いられているのかとの質問には、既に見たように、“As far as we can ascertain...” とだけ述べ、確たる回答をしていない。

本状に同封の手紙のコピーとは、*The Economist* 誌1990年7月14日号の LETTERS 欄 (p. 6) のものであるが、同誌は同欄において、一読者の同語の用法に関する質問に次のように答えている。

A: One thousand million

SIR—Q: When you use the word “billion”, what do you mean: one thousand million or one million million?

Bogota,

Colombia— (氏名省略)

すなわち、南米・コロンビア共和国ボゴタ市在住の一読者からの〈貴誌が用いている *billion* とは **one thousand million** (10億) の意味ですか、あるいは、**one million million** (1兆) の意ですか〉との質問 (Q) に対して冒頭の回答 (A) で **one thousand million** (10億) の意である、と明確に述べている。

上に挙げた *The Economist* 誌の読者の質問に対する誌上での回答、また、同誌 Research Department の筆者への回答から、*billion* は、現代

15) Central Statistical Office (CSO) 発行の *Economic Trends* 誌は、Introduction において ‘Billion’ denotes one thousand million. との注記をし、同書で用いられている *billion* が 1,000,000,000 〈10億〉の意であると明記している。

の英国では、*The Economist* 誌のような経済誌だけではなく、**Central Statistical Office**¹⁵⁾や **The Treasury** などの英国の政府機関においても、英国本来の用法の〈1兆〉ではなく、米国と同じく〈10億〉の意で広く用いられるようになってきていることが理解できよう。

また、前項の用例 b の *Financial Times* 紙も、*billion* を米用法の〈10億〉の意で用いていたのであるが、次の記述はそのことを裏付けている。

「念のため同紙東京支局の **Charles Smith** 記者に問い合わせたところ、*FT* では1973年より *billion* を「10億」として使っているとのこと。では、*The Times* はどうかというと、“A limit of $\pounds 4,750m$ was set two years ago…”のような表記(m =million)を紙面では使っており、これだと誤解は防げる。これも同紙の東京支局に問い合わせたところ、**Peter Hazelhurst** 記者は、紙面ではそう表記しているが、*billion* は「10億」であると語っていた。(M.H.) (『Billion は「10億」か「1兆」か』『時事英語研究』(35巻4号1980年7月 p. 27))

先に、*The Economist* 誌は、〈10億〉の意の *billion* の使用について、いつからという確答をしていなかったが、*Financial Times* 紙の場合は、上の記述によると、記者を通して1973年以来、としているのは興味深い。そして、今日では、*The Times* 紙も、*billion*, *trillion* を紙面において、それぞれ、〈10億〉〈1兆〉の意で用いていることは、前項の c, d, f の用例が示す通りである。すなわち、現在では、紙面においても、 $\pounds 4,750m$ のように *million* ではなく *billion* を用いて $\pounds 4.75 billion$ のように表されているということになる。

また、後に考察するように、*OED* は同辞典の *A Supplement to the Oxford English Dictionary*. Vol. I (A-G) (1972) と *OED*² (1989) において、*billion* が〈10億〉の意で英国でも1951年以来一部に使われている、としている。従って、英国(英語)において、10億は、本来の表記では1,000 *million* あるいは1 *milliard* であるが、新しい用法では米用法と同じ1 *billion* ということになる。そして、そのことは上に挙げた用例から明らかである

う。ただし、*OED* は、旧来の a million million <1兆> の意の用法も今でもおこなわれている、としている。

5. *WHITAKER'S ALMANACK* の記述

では、ここで英国の代表的な年鑑 *WHITAKER'S ALMANACK* の *billion* および *trillion* に関する記述を見ることにしよう。同年鑑1990年版は、*Weights and Measures* の欄で次のように記している。

Million, Billion, etc.

Value in the United Kingdom

Million	thousand×thousand	(10 ⁶)
Billion	million×million	(10 ¹²)
Trillion.....	million×billion	(10 ¹⁸)
Quadrillion	million×trillion	(10 ²⁴)

The American usage of billion (i. e. 10⁹) is increasingly common, and is now universally used by statisticians.

Value in U. S. A.

Million.....	thousand×thousand	(10 ⁶)
Billion.....	thousand×million	(10 ⁹)
Trillion	million×million	(10 ¹²)
Quadrillion.....	million×billion U. S.	(10 ¹⁵)

— *Whitaker's Almanack 1990*, p. 1181
under *Weights and Measures*

上の *Value* が示すように、*million* は英米共に 10⁶ <100万> で同じであるが、*billion* 以上の *Value* が異なる。*Billion* ならびに *trillion* の英国の本来の用法は、前者が米国の thousand×million (10⁹) <10億> に対して、million×million (10¹²) <1兆> であり、後者は米の million×million (10¹²) <1兆> に対して、million×billion (10¹⁸) <100京> である。しかし、同年鑑は、本来の英国用法の *billion* <1兆> に関して、英国の *value* の後に、<米国用法の *billion* (10⁹) <10億> がますますふつうになり、今日では統計

家によって広く用いられている」と付記している。

しかし、同年鑑の 8 年前の 1982 年版 (p. 1216), また、それより以前の 1961 年版 (p. 1182) および 1962 年版 (p. 1182) においては、上と全く同様の *Value in the United Kingdom* と *Value in U. S. A.* の表を挙げた後に次のように付記している。

United Kingdom (and other European) usage above
follows the decision of the 9th Gen. Conference on
Weights and Measures, 1948.

— *Whitaker's Almanack 1982, 1962, 1961*
under Weights and Measures

すなわち、〈上記の英国（ならびに他の欧州）の用法は 1948 年 第 9 回国際度量衡¹⁶⁾総会の決議に従っている〉と。

注 6) で述べたように、また、後に 7 で考察するように、同付記の〈他の欧州〉にはフランスも含まれる。すなわち、米国と同じく *billion* や *trillion* を〈10億〉と〈1兆〉の意で用いてきたフランスが、同総会の決議に従って、英国と同じように、同語を〈1兆〉と〈100京〉の意で用いるようになった、ということである。

同総会の決議の内容とは、COMPTES RENDUS DES SÉANCES DE LA NEUVIÈME CONFÉRENCE GÉNÉRALE DES POIDS ET MESURES, RÉUNIE A PARIS EN 1948 (1948年パリで開催の第 9 回国際度量衡総会の審議報告) によると、下記の Règle (n-1) と Règle N の表に挙げられている value を指す。

16) 『世界大百科事典』(1988) は、国際度量衡総会 (Conférence Générale des Poids et Mesures) としている (第 20 巻 p. 503 「度量衡」参照。なお、日本の「度量衡法」は、明治 24 年 3 月公布、同 26 年 1 月施行されたが、近年、全面的に変えられ「計量法」として、昭和 26 年公布、同 27 年 3 月施行された。

Règle (n-1).

10 ⁶ million	10 ¹⁵ quadrillion	10 ²⁴ septillion
10 ⁹ (milliard ou) billion	10 ¹⁸ quintillion	10 ²⁷ octillion
10 ¹² trillion	10 ²¹ sextillion	10 ³⁰ nonillion

10^{3N} = (n-1)illion.

Règle N.

10 ⁶ million	10 ²⁴ quadrillion	10 ⁴² septillion
10 ¹² billion	10 ³⁰ quintillion	10 ⁴⁸ octillion
10 ¹⁸ trillion	10 ³⁶ sextillion	10 ⁵⁴ nonillion

10^{6N} = (N)illion.

すなわち, Règle (n-1) における billion, trillion, quadrillion... とは, その value が, それぞれ, 10⁹, 10¹², 10¹⁵,... で, 米国やフランスで用いられてきたものである。これに対して, Règle N の billion, trillion, quadrillion,...とは, それぞれ, 10¹², 10¹⁸, 10²⁴,...で, 英国の用法であるが, フランスは, 1948年以降, 同用法を採用することにしたということになる。

さらに, 同年鑑の1949年版にまで遡ると, 上に述べた後年の版にある英国や米国における Value の表はなく, billion の用法についてのみ次のような記述をしている。

Billions, at Home and Abroad.

A billion in the British Isles is regarded as a *million* millions (1, 000, 000, 000, 000) but in France and in some other parts of the Continent of Europe, and in Canada and the U. S. A., it is to be interpreted as equivalent to a *thousand* millions (1, 000, 000, 000) only.

—WHITAKER'S ALMANACK 1949, p. 665

* In U. S. A. a billion is a *thousand* million (1, 000, 000, 000); in U. K. it is a *million* million (1, 000, 000, 000, 000).

—Ibid., p. 877

同記述は、既に見た 1-21 の辞書や語法の参考書が定義する内容と同じである。すなわち、英国における *billion* は **a million million** <1 兆> であり、フランスおよび欧州大陸の他の一部の国と、カナダならびに米国においては、同語は **a thousand million** <10 億> である、と。

以上の *WHITAKER'S* 年鑑の記述を逆から見ていくと、1949年版では、*billion* は、英国においては、**a million million** <1 兆> であるが、フランス、他の一部の欧州大陸諸国、米国、カナダにおいては、**a thousand million** <10 億> である。それが、1961年版にある <英国（ならびに他の欧州）用法は1948年第 9 回国際度量衡総会の決議に従っている> との付記から、後に考察するように、米国と同じ用法を採って *billion* を <10 億>、*trillion* を <1 兆> の意で用いてきたフランスが、英用法、すなわち、同語が造られた語源的用法の <1 兆> と <100 京> の意で 1948 年以降、用いようになっていることが理解できる。さらに、1990年版では、同付記から、英国においては、*billion* の <10 億> の意の米用法がますますふつうに用いられるようになっていることがわかる。

6. *Billion* ならびに *Trillion* の語源

では、次に *billion* ならびに *trillion* の語源について、さらに、同語の語源と実際の用法との関連について、*OED* (1884-1928) のそれぞれの語の項の記述に基づいて考察をおこないたい。

本小論で考察の対象としている *billion* と *trillion* さらに、*billion* の下位の数の *million* また、*trillion* の上位の数の *quadrillion* もすべてフランス語からの借用語¹⁷⁾である。では、フランス語においてこれらの語、すなわち、*million*, *billion*, *trillion*, *quadrillion* はどのようにして、どのような

17) *OED* は、<a. F.=adopted from French> とし、これらの語がフランス語からの借用語 (loan words) であると明記している。ちなみに、英語における「基本的な語彙約 2 万語についてみると、本来語の占める率 19% に対して、ラテン語とフランス語からの借用語を合わせると 51% に及び、語彙 14 万語についても前者 14%、後者 57% となっている。」(『新英語学辞典』(1982) p. 407 参照)。

意味の語として造られたのか。

OED によると, *billion* は *million* (1,000,000) <100万> の最初の *mi* の文字を2倍の意の接頭辞 *bi-* と置換え, 同語の二乗を表す *billion* (1,000,000,000,000) <1兆> が造られた。すなわち, 同語は16世紀¹⁸⁾ に作作的に造られた語である。しかし, *OED* は, 同語が17世紀末期以前に英語に採入れられた形跡はないようである, と述べ, 1690年の初出用例を挙げている。

Trillion と *quadrillion* も, *billion* が *million* を起源とするように, 3倍, 4倍の意を表す接頭辞の *tri-*, *quadri-* を *million* の *mi* と置換えて, 造られた語である。そして, *billion* が *million* (1,000,000) <100万> の二乗の数の 1,000,000,000,000 <1兆> を表すように, *trillion* は *million* の三乗の数の 1,000,000,000,000,000,000 <100京> を, *quadrillion* は四乗の数の (1,000,000,000,000,000,000,000,000) <1杼または1稜> を表す造語である。

Billion は, 同語が造られたフランスにおいて, また, その後, 英語に採入れられた英国において, その本来の意味は, 既に述べたように, *million*

18) これらの語の成立は *DELFL* は1520年としているが, *ROBERT*² は1484年と1520年を挙げている。Cf. 1) *billion* (1520, E. de La Roche, Arithm.), création savante: altération de *million*, par substitution de la particule *bi-*, deux fois, à la syllabe initiale; d'où *trillion* (1520, *id.*), *quatrillion* (*quadrillion*, 1520). *trillion* (1520, E. de la Roche; désignait alors «mille milliers de billions»), de *million*, avec remplacement de l'initiale par le préfixe *tri-*, trois. - *DELFL* (1938); 2) *BILLION* - 1520; *byllion*, 1484, sens 2.; altér. de *million* par substitution de *bi-* à la syllabe initiale. 1. (1721). Vx. Mille millions (109). ⇨ *Milliard* (sens de l'amér. *billion*). 2. Mod. Un million de millions (1012), soit mille milliards. ⇨ *Trillion* (anciennt), *milliasse* (vx). *TRILLION* - 1484, «mille milliers de billions», soit 10¹⁵; de *tri-*, sur le modèle de *million*. 1. Anciennt (et encore dans le langage des non-spécialistes). Mille milliards, 10¹². ⇨ *Billion*. On a dit *milliasse* dans ce sens. 2. Mod. (depuis la Conférence des poids et mesures de 1948). Un milliard de milliards (soit 10¹⁸). Un million de trillions. ⇨ *Quadrillion*. - *ROBERT*² なお, *OED* の *trillion* の項においても, 1484年と1520年両方が挙げられている。

(1,000,000)〈100万〉の二乗の 1,000,000,000,000〈1兆〉である。同様に、**Trillion** も、本来は、**million** の三乗の 1,000,000,000,000,000,000〈100京〉である。しかしながら、表 1, 2 を見ると、フランスとアメリカでは、それぞれ、1,000,000,000 (10億) と 1,000,000,000,000 (1兆) の意で用いられる、とかって書きされている。すなわち、*billion* や *trillion* は、同語が造られた本家本元の仏国(仏語)において、さらに、米国(米語)において、それぞれの語が造られた際の本来の語源的な意味の〈1兆〉や〈100京〉ではなく、〈10億〉や〈1兆〉の意で用いられるようになったということになる。それはどのような理由によるのか。

OED によると、*billion* の用法は、その後、フランス人数学者により変えられたのであるが、それは、数字を数える際に、6つ毎に区切らないで、3つ毎に区切るようになったことによる。すなわち、6つ毎に区切っていた時は、1の位から数えて7つ目が100万(1,000,000)であり、さらに、6つゼロをつけた13番目が100万の二乗の1兆(1,000,000,000,000)であり、それに、さらに、6つゼロをつけた19番目が100万の三乗の100京(1,000,000,000,000,000,000)であった。それが、数字を3つ毎に区切るようになったことにより、フランス語の *billion* や *trillion* が語源的に正しいと考えられる **million**〈100万〉の二乗の〈1兆〉や三乗の〈100京〉を表さないで、それぞれ、前者が **a thousand millions** すなわち、10億(1,000,000,000)を、後者が **a thousand thousand millions** すなわち、1兆(1,000,000,000,000)を表すようになったのである。

従って、英国(英語)における *billion* や *trillion* は、*OED* の記述にもあるように、本来の語源に基づいた用法を保っているということになる。すなわち、前者は **a million million**(1兆)、後者は **a million billion**(100京)の意で、*billion* の初出用例は1690年とされている。これに対して、仏国(仏語)においては、既に述べた理由から、また、それを19世紀に採り入れた米国(米語)においては、*billion* が **a thousand million**〈10億〉、*trillion* が、**a thousand thousand million**〈1兆〉の意で用いられているということに

なる。なお、米国における *billion* の初出用例は、*OED* 初版では、1864年とされていたが、同辞典の補遺第1巻 (A-G) (1972) と同第2版 (1989) においては、1834年とされている。

このように、英国 (イギリス英語) の本来の用法の *billion*, *trillion* とは、それぞれ <1兆> (10^{12}), <100京> (10^{18}) であるが、これは同語が造られた際の *million* <100万> (1,000,000) (10^6) の二乗 (bi-) の 1,000,000,000,000 (10^{12}) と三乗 (tri-) の 1,000,000,000,000,000,000 (10^{18}) という語源に基づいたものであり、言語的には正しい用法であると言えよう。

7. 仏語 (仏国) における *Billion* と *Trillion*

既に考察したように、*billion* や *trillion* は、これらの語の形成の基礎となる *million* も含めて、フランス語である。では、これらの語はフランスにおいて、また、フランス語において、どのように用いられてきたのか。

先に、*Whitaker's Almanack* の1962年版や1982年版において、*Weights and Measures* 欄の *Million, Billion, etc. Value in the United Kingdom* に <上記の英国 (ならびに他の欧州) の用法は1948年第9回国際度量衡総会の決議に従っている> と付記していた。既に述べたように、本文言の「ならびに他の欧州」にはフランスが含まれる。すなわち、米用法と同じく *billion* や *trillion* を <10億><1兆> の意で用いていたフランスが、1948年以降は、英国用法に倣い、*billion* は <1兆> の意で、*trillion* は <100京> の意で用いるようになったということである。

では、フランス語の辞書 *PETIT LAROUSSE* の1920年版、1950年版と1961年版の *billion* ならびに *trillion* の定義を比較してみよう。

次頁の *Larousse* の定義から、仏語の *billion* とは、1920年版、1950年版においては、米用法と同じ <10億> であり、*trillion* も米用法と同じ <1兆> であったことがわかる。それが、1961年版では、*billion* は *un million de millions* (10^{12}) すなわち、英用法の <1兆> となり、付記で <昔はフランスにおいても、また、米国においては現在でも、10億の意である> とし、後

<i>PETIT LAROUSSE ILLUSTRÉ</i> 1920/1950 ¹⁹⁾	<i>PETIT LAROUSSE</i> 1961
<i>BILLION</i> Syn. de <i>MILLIARD</i> .	Un million de millions (10 ¹²) ou 1 000 000 000 000. Autref., et encore aux Etats-Unis. syn. de <i>MILLIARD</i> .
<i>TRILLION</i> Mille billions ou un million de millions.	Un milliard de milliards (1 000 000 000 000 000 000, soit 10 ¹⁸).
(<i>MILLIARD</i> Mille millions (billion).	Mille millions.)

者は un milliard de milliards (10¹⁸) すなわち、英用法の〈100京〉であると、その用法が変わってきたことを示している。

*ROBERT*² は *trillion* の項で現代用法の un milliard de milliards (soit 10¹⁸) すなわち、〈100京〉の意は (depuis la Conférence des poids et mesures²⁰⁾ de 1948) (1948年国際度量衡総会以来) としている²¹⁾が、これは、先に見た英国の *Whitaker's* 年鑑の記述 “United Kingdom (and other European) usage above follows the decision of the 9th Gen. Conférence on Weights and Measures, 1948.” (上記の英国 (ならびに他の欧州) の用法は1948年第9回国際度量衡総会の決議に従っている) の文言と符合する。また、文言の中にある「他の欧州」にはフランスが含まれていることが理解できよう。

従って、フランスは、1948年の同会議の決議に従って、それまで米用法と同じであった *billion*, *trillion* 等の value を英用法に変更したということになる。OED² も “Britain retained the original and etymological use

19) 1950年版の辞書名は *NOUVEAU PETIT LAROUSSE ILLUSTRÉ* である。

20) 注16) 参照。

21) 仏和辞典も、例えば、『仏和大辞典』(1981), 『新スタンダード仏和辞典』(1987) は, *billion*, *trillion* をそれぞれ〈1兆〉(10¹²), 〈100京〉(10¹⁸) [1984年より] とし、前者〈10億〉(10⁹), 後者〈1兆〉(10¹²) は「古=古用法」[1948年まで]と付記している。

(to which France reverted in 1948).” と記している。換言すると、これらの語は、フランスにおいて、1948以降、*million* から造られたフランス語本来の語源的用法に立ち返って用いられるようになったということになる。

*OED*² (1989) が述べているように、英国では、1951年以来、本来の英用法から米用法に合わせて *billion* を〈1兆〉ではなく、〈10億〉の意でますます広く用いるようになってきている時に、フランスでは、1948年以来、米と同じ用法には決別して本来の語源的な〈1兆〉の意に戻って用いられるようになったという事実は、逆行的な印象を与えるが、興味のあることだ。

8. *Billion* と *Trillion* に関する辞書や参考書の記述 (2)

以下に挙げる22—37 (1972—1991) の辞書、または、参考書は、既に挙げた1—21 (1884—1989) の場合とは異なって、*billion* と *trillion* の両語が、あるいは、*billion* が、英国 (英語) において、本来の英国用法ではなく、米国用法に倣って用いられるようになってきている旨の記述をしている。本項では、それらの辞書や参考書の定義を挙げ、それらが新しい用法にどのような記述をして、対応しているかを考察したい。

22. *A Supplement to the Oxford English Dictionary*. Vol. I (A-G) (Oxford Univ. Press)(1972); Vol. IV (Se-Z) (1986)[*Supplement/補遺*]

billion. 2. (For examples 1834—see *D.A.E.*) Since 1951 the U. S. value, a thousand millions, has been used by some writers in Britain, but the older sense ‘a million millions’ still prevails. (Vol. I)

trillion. Add: The sense ‘a thousand “billion”, or 10^{12} ’ is now standard in the U. S. and is increasingly common in British usage. (Further examples.) (Vol. VI)

1919 ... 1971 ... 1975 ... 1980 ... 1982 ... (用例省略)

23. *Longman Dictionary of Contemporary English*. (Longman)(1978)

[LDCE]

billion 1 (the number) 1,000,000,000; 10^9

2 *BrE old use* (the number) 1,000,000,000,000; 10^{12}

trillion 1 *BrE* 1,000,000,000,000,000,000; 10^{18}

2 *esp. AmE* 1,000,000,000,000; 10^{12}

24. *Chambers Universal Learners' Dictionary*. (Chambers) (1980)

[CULD]

billion 1 often in the UK, the number 1 000 000 000 000; in the US and often in the UK, the number 1 000 000 000: ...

2 often in the UK, the figure 1 000 000 000 000; in the US and often in the UK, the figure 1 000 000 000.

25. Michael Swan, *Practical English Usage*. (Oxford Univ. Press) (1980) [PEU]

billion A *billion* is a thousand million (1,000,000,000). In British English a *milliard* used to mean 'A thousand million', and a *billion* used to mean 'a million million' (1,000,000,000,000), but these uses are no longer common.

26. Frederick T. Wood, *Current English Usage*, Revised by R. H. Flavell and L. M. Flavell. (Macmillan) (1981) [CEU²]

billion Until recently in British usage, *billion* meant the number 'one million million'; but the American sense of 'a thousand million' is becoming increasingly current. It is best to state clearly which is meant.

27. J. H. Adam, *Longman Dictionary of Business English*. (Longman) (1982) [LDBE]

billion 1,000,000,000, a thousand million or milliard (10^9).

28. *The Pocket Oxford Dictionary of Current English*, 7th Edition.
(1984) [POD⁷]

billion million million; *US* (and increasingly *Brit.*) thousand million;

trillion million million million; *US* (and increasingly *Brit.*) million million;

29. *Chambers Concise 20th Century Dictionary*. (Chambers) (1985)
[CCCD]

billion in Britain, France (since 1948), etc., a million millions (unit and twelve ciphers): in U.S., often now in Britain, one thousand millions (unit and nine ciphers) or milliard.

trillion the cube of a million: the cube of ten thousand (*U. S.*, and before 1948 in France).

30. Loreto Todd and Ian Hancock, *International English Usage*. (Croom Helm) (1986) [IEU]

billion (bn), million (m), thousand (K)

In the USA *billion* means ‘one thousand million’, that is, a one followed by nine zeros: 1,000,000,000. In the U. K., *billion* traditionally referred to ‘a million million’, that is, a one followed by twelve zeros: 1,000,000,000,000. The US meaning is gradually replacing earlier UK usage, even in government documents and school books. Wherever there is even a slight risk of misunderstanding, an explanation of *billion* should be provided.

31. *Longman Dictionary of Contemporary English*, 2nd Edition.
(Longman) (1987) [LDCE²]

billion 1 (the number) one thousand million; 1,000,000,000; 10⁹
2 *BrE old use* (the number) one million million;

1, 000, 000, 000, 000; 10^{12}

trillion 1 (the number) one million million; 1, 000, 000, 000, 000; 10^{12}

32. *Collins COBUILD English Language Dictionary*. (Collins) (1987)
[COBUILD]

billion A billion is a number representing a thousand million, or a million million in rather old-fashioned British English.

trillion A trillion is a number representing a million million, or a million million million in rather old-fashioned British English.

33. Sidney Greenbaum and Janet Whitcut, *Longman Guide to English Usage*. (Longman) (1988) [LGEU]

billion In older British use, a billion is a million million, 10^{12} .

The British are now using billion increasingly to mean a thousand million, 10^9 , which is what the word means in American and in international scientific English. One must be careful to avoid ambiguity between these two possible senses. Milliard, which also means a thousand million, is not used technically in modern English.

trillion In British English the older use of trillion to mean a million million million (10^{18}) is increasingly giving way to its use to mean a million million (10^{12}), which is standard in American and international scientific English.

34. *The Oxford English Dictionary*, 2nd Edition. 20 vols. (Oxford Univ. Press) (1989) [OED²]

billion

In the 19th century, the U. S. adopted the French convention, but Britain retained the original and etymological use (to which France reverted in 1948).

Since 1951 the U. S. value, a thousand millions, has been increasingly used in Britain, especially in technical writing and, more recently, in journalism; but the older sense ‘a million millions’ is still common.

1. *orig.* and still commonly in Great Britain: A million millions.

(=U. S. *trillion*.)

1690 ... 1711 ... 1778 ... 1870... (用例省略)

2. In U. S., and increasingly in Britain: A thousand millions.

1834, etc.: ... 1864 ... 1983 ... (用例省略)

trillion

The third power of a million; a million billions, i. e. millions of millions. Also, *orig.* in France and local U. S., a thousand ‘billions’, or 10^{12} (i. e. the traditional English billion: see BILLION): this sense is now standard in the U. S. and is increasingly common in British usage.

1690 ... 1696 ... 1706 ... 1802 ... 1806 ... 1867 ... 1919 ... 1971 ...

1975 ... 1980 ... 1982 ... (用例省略)

35. John O. E. Clark, *Harrap's Dictionary of English Usage*. (Harrap) (1990) [*Harrap's*]

billion=1,000 million in the United States (a number formerly known as a *milliard* in Britain); originally a billion=1 million million in Britain, but is increasingly being used in the American sense. Therefore, to prevent possible ambiguity, use “thousand million” or “million million”. Scientific texts may use 10^9 and 10^{12} .

milliard=1,000 million, increasingly being called a billion (which *see*).

36. F T Wood, R H Flavell and L M Flavell, *Current English*

Usage. (Macmillan) (1990) [CEU³]

billion Until recently in British usage, *billion* meant the number 'one million million', but the American sense of 'a thousand million' is now current.

37. *COLLINS ENGLISH DICTIONARY*, 3rd Edition. (Harper Collins) (1991) [CED³]

billion 1. one thousand million: written as 1 000 000 000 or 10^9 .

2. (formerly, in Britain) one million million: written as 1 000 000 000 000 or 10^{12} .

trillion 1. (in Britain, France, and Germany) the number represented as one followed by eighteen zeros (10^{18}); a million million million. U. S. and Canadian word: quintillion. 2. (in the U. S. and Canada) the number represented as one followed by twelve zeros (10^{12}); a million million. Brit. word: billion.

上に挙げた辞書や参考書は、*billion* と *trillion* の両語が、もしくは、*billion* が、英国において、本来の英用法ではなく、米用法に倣って用いられるようになってきている、と記述している。すなわち、英国（英語）において、*billion*, *trillion* が、それぞれ、本来の〈1兆〉、〈100京〉の意ではなく、米国（米語）用法の〈10億〉、〈1兆〉の意で用いられるようになってきているということである。

既に見たように、*OED* は *Supplement I* (1972)、さらに、第2版(1989)において、*billion* の現代の英国用法について次のように記述していた。〈英国で、1951年以来、*billion* が a thousand millions (10億) の意で用いられることが増えてきている、特に、技術文書や、最近は、新聞・雑誌においては、顕著であるが、同時に、昔の用法である a million millions (1兆) の意も未だふつうである〉と。また、*trillion* についても、*OED* 補遺 Vol. IV (1986) と第2版は、英国において、〈100京〉(10^{18}) の意ではなく、米

国と同じく1兆 (10¹²) の意の用法がますますふつうになってきている、としている。

Billion が英国で、本来の〈1兆〉ではなく〈10億〉の意で用いられ始めている、と最初に記述した辞書は *OED* の補遺第1巻 (1972) である。同補遺によると、英国で *billion* が〈10億〉の意で用いられ始めたのは1951年以来のことであるが、最初に挙げた辞書や参考書1—21のうち、4の *DCAU* (1957) 以下は1957年以降に出版されているものの、21の *OALD*⁴ (1989) に至るまでそのことに触れている書は一冊もない。新しい用法への辞書の対応は概して遅い、特に、広く一般に定着しているか否か定かでないこのような新しい用法の場合にはそうであるが、このことはその一例とも言えよう。

上記23—37の辞書や参考書 (1978—1991) は、*billion* や *trillion* の定義に関して、22の *OED* 補遺 I (1972)、IV (1986) の同語の記述を多少とも参考に行っていると考えられるが、それぞれの定義は一様ではない。*OED* の補遺 (1972) が世に出て以来、上に挙げた辞書や参考書のうち、英国における〈10億〉の意の *billion* の用法について、*OED* の次に最も早く記述したのは23の *LDCE* (1978) である。

LDCE は、*billion* の項で最初に 10⁹ の意を、次に、イギリス英語の古い用法として 10¹² を挙げている。*OED* 補遺 (1972) は〈a million millions の意の *billion* も未だに用いられている〉と記述していたが、6年後に出版された *LDCE* は 10¹² の意の *billion* は既に古用法である、と判断したということであろうか。*PEU* (1980) も *billion* とは 10⁹ であり、10¹² の意はもはやふつうの用法ではない、としている。*CEU*² (1981) も、*billion* の英用法は最近まで *one million million* すなわち、10¹² であったが、同語は米用法の 10⁹ の意でますますふつうに用いられるようになっていたので、どちらの意で用いられているかを明記すべきである、としている。また、*LDBE* (1982) は、*billion* の定義に米国用法の10億 (10⁹) を採用し、本来の英国用法については触れていない。同語は 10¹² の意では、もはや用いられないということを暗に示しているのであろうか。

Trillion に関しては、上記22—37の辞書や参考書16冊中、*CULD*, *PEU*, *CEU*², *LDBE*, *IEU*, *Harrap's*, *CEU*³ の7冊には同語は載せられていない。*CULD* に同語が挙げられていないのは同書の学習辞典という性格上理解できるが、他の書において、同語は *billion* に比べるとより大きな値の数であり、その使用頻度はさらに低くなると判断され、除外されたのであろうか。当然のことながら、*trillion* の上位の語の *quadrillion* もこれらの書には載せられていない。また、同語について、最も新しい *CED*³ (1991) は、英国、フランス、ドイツ²²⁾においては 10^{18} の意、米国、カナダにおいては 10^{12} の意であるとし、*OED* やその他の辞書が定義している英国における新しい 10^{12} の用法については触れていない。ただし、*billion* については、新しい 10^9 の意を最初に挙げ、 10^{12} は昔の用法であるとしている。

LDCE は、*trillion* について、初版 (1978) において、イギリス英語では 10^{18} である、そして、 10^{12} の意は、〈特に、アメリカ英語〉でと記述していたが、9年後に出版された第2版 (1987) では、 10^{12} のみを挙げ、英国本来の用法の 10^{18} の意は挙げていない。 10^{18} の意の *trillion* は既に用いられないようになっていると判断されたということであろうか。

また、*LGEU* (1988) は、*billion* の 10^9 、*trillion* の 10^{12} の意の用法は、米語においてだけでなく、自然科学英語においても国際的に標準用法であり、同用法が英国 (英語) においてもますますふつうになってきている、と記述している。

以上考察したように、これらの辞書や参考書の記述は、*billion* に関しては、英国において、英国用法本来の〈1兆〉の意から米用法の〈10億〉の意で用いられるようになってきていると一致しているが、*trillion* については、既に述べたが、本項に挙げた16冊の辞書や参考書中、7冊には載せられ

22) 独和辞典は次のように定義している。『小学館 独和大辞典』東京：小学館。1985. Billion 1兆 (Million の2乗, 10^{12}) Trillion 百京 (Million の3乗, 10^{18}) Quadrillion Million の4乗 (10^{24}); R. シンチンゲル他編『独和広辞典』東京：三修社。1986. Billion 一兆 (ただしアメリカや昔のフランスでは十億) Trillion 百京 (一兆の百万倍) Quadrillion 百万の四乗の数。

ていないし、残りの9冊の場合もその記述は古いままであったり一様ではなく、揺れが見られる。*LDCE* は、初版(1978)においては〈100京〉の意としていたのを、同第2版(1987)では、米国用法と同じ〈1兆〉の意であると改めているが、*CCCD* (1985) や最も新しい *CED*³ (1991) は〈100京〉の意をそのまま載せ、*OED* やその他の辞書が定義している英国における新しい〈1兆〉の意の用法についてはなんら触れていない。しかし、*OED* が補遺IV (1986) や第2版 (1989) において、*trillion* が〈100京〉ではなく〈1兆〉の意で用いられることがますます増えてきていると記述し、また、*COBUILD* (1987) は〈1兆〉の意であり、〈100京〉の意は *old-fashioned British English* であるとし、*LGEU* (1988) も〈100京〉の意は *older use* であり、〈1兆〉の意が優勢になっている、としていることから理解できるように、辞書や参考書における同語の記述もいずれは *billion* の場合と同じく全面的に米国用法に倣って〈1兆〉の意と記述されることになろう。

9. おわりに

以上の考察から明らかであるが、*billion* や *trillion* は、*OED*² (1989) が *billion* の項の冒頭で〈米国は19世紀にフランス用法を採用したが、英国は同語の語源に基づいた本来の用法を保持した〉と述べているように、英国(英語)においては、同語が造られた際の語源の意味である *million* (100万) (10^6) の二乗の〈1兆〉 (10^{12}) (*billion*) や三乗の〈100京〉 (10^{18}) (*trillion*) の意で1690年の初出用例以来、長年にわたって用いられてきた。

しかし、*OED* の補遺第1巻 (1972) さらに、*OED*² (1989) が記述しているように、*billion* が1951年以来、英国において、米国(米語)用法の〈10億〉 (*a thousand million*) (10^9) の意で用いられることがますます増えてきた。特に、技術文書や、より最近では、新聞・雑誌において〈1兆〉ではなく、〈10億〉の意の用法の使用が増えてきた、としている。事実、既に用例 *b, c, d, f, g* を通して考察したが、英国の *Financial Times*, *The Times*, *The Economist* 等の一流の新聞・雑誌において、*billion*, *trillion* の語がそ

れぞれ、英用法本来の〈1兆〉〈100京〉ではなく、米用法の〈10億〉〈1兆〉の意で用いられていた。

英用法の〈1兆〉の意の *billion* は、*OED* によると、初出用例は1690年であるが、*Evanses* や *Fowler* が同語に関して、〈理論の上で存在するに過ぎなかった〉とか〈天文学的数字である〉と述べていたように、当時は、また、その後も長年月にわたって、*billion* は、あまりにも大きな値の数なので、理論上の数字として存在するに過ぎず、現実の統計などに登場するということもなかったであろうし、実際に用いられる事例もほとんどなかったであろう。しかし、*OED* が1951年以来、英国（英語）において、*billion* が米国（米語）用法の〈10億〉（a thousand million）（ 10^9 ）の意で用いられることがますます増えてきた、と述べているように、その頃から、英米間で取交わされる情報量も膨大になっていくと同時に、その中で扱われる統計上の数字の桁も大きくなり、*billion* の使用が増えてくるに従って、英国（イギリス英語）においては、同語の英米間の意味の違いが誤解の元になることを避けたいという意識から、米国（アメリカ英語）用法の10億に合やすようになってきたのであろう。

先に、*The Economist* 誌が同誌の中で用いている *billion* とは、米国用法と同じ〈10億〉の意であるとし、また、英国の大蔵省（*The Treasury*）や中央統計局（*Central Statistical Office*）などの政府機関も同語を〈10億〉の意で用いているとしていた。事実、*Central Statistical Office* が、各省の統計部門や中央銀行の *Bank of England* の協力の下に編集している月刊の経済統計誌 *Economic Trends* は、同誌の *Introduction* の *Notes* で、**'Billion' denotes one thousand million.** と定義し、同誌に挙げられている経済指標を示す表やグラフの単位の *billion* が英国本来の〈1兆〉ではなく、〈10億〉の意である、と明記している。

しかし、同誌457号（No 457, November 1991）の120頁を仔細に見てみると、*£billion*（10億ポンド）の単位で表されている箇所は図表に p. 55 と p. 59 の2カ所あるのみで、他の表やグラフの数字は *billion* で表すことが

可能であるにも拘らず、すべて英本来の \pounds million (100万ポンド) を単位としている。例えば、表27の **Balance of payments: current account** における 1991 Oct の **Visible trade-Exports (f. o. b.)** は \pounds 8 679であるが、その単位は million としているので、 \pounds 8,679 million とは **eight thousand six hundred and seventy-nine million pounds** (86億7,900万ポンド) と読める。もちろん、単位を *billion* とし、 \pounds 8.679 billion を **eight point six seven nine billion pounds** と読むことも可能であるし、米用法ではそのようにするところであろう。

このように \pounds 8,679 million を、 \pounds million (100万ポンド) の単位で表し、8の位を **eight thousand** と読めば、*billion* が米用法の〈10億〉であろうが、英用法の〈1兆〉であろうが関係ないということになる。なぜなら、米用法であっても、上のように **thousand** を用いて **eight thousand six hundred and seventy-nine million pounds** と読むことは可能である²³⁾からだ。ただ、米用法では、10億の位の8には *billion* を用いて **eight billion six hundred and seventy-nine million pounds** と読むことが可能である。が、本来の英用法では、1兆の1/10の千億までは、例えば、 \pounds 238,679 million (2,386億7,900万) は **two hundred thirty-eight thousand six hundred and seventy-nine million pounds** と読む。そして、もう一桁増えて、 \pounds 4,238,679 million (4兆2,386億7,900万) になって初めて、兆の位に *billion* を用いて **four billion two hundred thirty-eight thousand six hundred and seventy-nine million pounds** と読むことになる。もちろん、米用法では、同数字を **four trillion two hundred and thirty-eight billion six hundred and seventy-nine million pounds** と読むことになる。

Billion の用法について、CEU² (1981) は、米用法の〈10億〉の意が、

23) Evanses (1957) は、*billion* は英国では a million millions の意であるが、米国では a thousand millions の意であるとし、この米用法は、連邦議会議事録にある〈議長、“billion” という語を英語から駆逐したい、それより a thousand million を用いる方がよい〉という引用からも明らかである、としている。

英国において、ますますふつうになってきてはいるが、どちらの意で用いられているのか、明確に述べるほうがよい、*IEU* (1986) も、米用法が、公文書や教科書の中においてできえ、以前の英用法に徐々に取って代わって用いられているので、少しでも誤解される恐れがある場合には同語の用法の説明をすべきである、*LGEU* (1988) も今日では英国人も同語を〈10億〉の意でますます用いるようになってきているが、〈1兆〉と〈10億〉の2つの意味のどちらなのか曖昧にならないよう注意すべきである、*Harrap's* (1990) も、英国において本来〈1兆〉の意の *billion* が米用法の〈10億〉の意でますます用いられるようになってきているので、曖昧にならないように〈10億〉には *thousand million* を、〈1兆〉には *million million* を用いるよう、との付記をしている。

このような付記は、英国（イギリス英語）における *billion* が、既に、用例を通して見たように、現実には〈10億〉の意で用いられるようになっていくとはいうものの、同語は本来〈1兆〉の意であるという意識もまだ強く残っており、従って、誤解を避けるためにも配慮が必要であるということを示していると考えられよう。既に見たように、*Economic Trends* 誌が、同誌の統計に使用している *billion* とは *one thousand million* 〈10億〉の意と序文で注記しているのも、そのような誤解を避けようとしていることの現れであろう。

このように、*billion* や *trion* は、現代の英国においては、既に見た英国の新聞 *Financial Times*, *The Times* や、英国の雑誌 *The Economist* からの用例、さらに、英国政府の経済統計誌 *Economie Trends* の注記から明らかなように、これらの語の語源に沿った英本来の用法である、それぞれ、〈1兆〉〈100京〉の意ではなく、米用法に倣って〈10億〉〈1兆〉の意で広く用いられるようになってきている。しかし、この現代の英国（英語）用法は、フランスが1948年以降、第9回国際度量衡総会の決議にある *Règle N* の表に倣うと決めたように、米用法と同じ *Règle (n-1)* に倣うと正式に決めて推移しているわけではない。従って、一般には *billion*, *trillion* は、

本来、それぞれ、〈1兆〉〈100京〉の意であるという意識も未だ残っていると考えられ、それが既に考察した辞書や語法参考書の定義の不統一にも表れていると言えようが、いずれにしろ、英国（英語）において、最後に挙げる表3の右側にある本来の英用法から、左側の米用法に全面的に移行するのは時間の問題であろう。なぜならば、既に見た現代の実際の用例がその方向で推移しているからである。

*OED*² (1989) が〈フランスは1948年に、英国が保持してきた本来の語源に基づいた用法に逆戻りした〉と記述していたように、フランスは1948年に英国用法に倣って *billion* や *trillion* を〈1兆〉〈100京〉の意で用いることにしたのであるが、当の英国においては、その現実の用法は、フランスとは反対に、永年にわたって保持してきた語源に基づく〈1兆〉〈100京〉の意を捨てて、米国に倣ってそれぞれ〈10億〉〈1兆〉の意で用いるようになってきている。

Billon や *trillion* の用法に関して、フランスが1948年に、米用法から英用法に変わったのに対して、英国の現実の用法は、*OED* によると1951年以来、米用法に倣ってきているという事実は、同じ英語国として、特に、第二次世界大戦後、政治、経済、文化などあらゆる面でイギリスに強い影響を与えてきたアメリカの力のせいであるとはいえ、非常に興味深い事実である。

既に見たように、アメリカ人の *Evanses* (1957) やイギリス人の *Fowler* (1926) が *billion* の用法の違いから生じるであろう米英の誤解について懸念したのであるが、現実にはそのような誤解を避けるため、また、米の2億4千8百万7千人に対して、英の5千7百12万人という人口の点から考えても、生み出す情報量のはるかに多い米国に合わせて、*billion* を〈1兆〉の意ではなく米用法の〈10億〉の意で用いるようになっている。英国（イギリス英語）が *billion* だけではなく *trillion* についても、本来の英国用法（表3の右側）から米国用法（表3の左側）に全面的に移行するのは時間の問題であろう。

表 3

米国(米語)用法		英国(英語)用法	
unit	1 一	unit	
ten	10 十	ten	
hundred	100 百	hundred	
thousand	1,000 千	thousand	
ten thousand	10,000 万	ten thousand	
hundred thousand	100,000 十万	hundred thousand	
million	1,000,000 百万 10 ⁶	million	
ten million	10,000,000 千万	ten million	
hundred million	100,000,000 一億	hundred million	
<i>billion</i>	1,000,000,000 十億 10 ⁹	thousand million ²⁴⁾	
ten billion	10,000,000,000 百億	ten thousand million	
hundred billion	100,000,000,000 千億	hundred thousand million	
<i>trillion</i>	1,000,000,000,000 一兆 10 ¹²	<i>billion</i>	
ten trillion	10,000,000,000,000 十兆	ten billion	
hundred trillion	100,000,000,000,000 百兆	hundred billion	
quadrillion	1,000,000,000,000,000 千兆 10 ¹⁵	thousand billion	
ten quadrillion	10,000,000,000,000,000 一京	ten thousand billion	
hundred quadrillion	100,000,000,000,000,000 十京	hundred thousand billion	
quintillion	1,000,000,000,000,000,000 百京 10 ¹⁸	<i>trillion</i>	
ten quintillion	10,000,000,000,000,000,000 千京 10 ¹⁹	ten trillion	

参 考 文 献

一般辞書

Beaujean, A. *PETIT LITTRÉ*, Dictionnaire de la langue française, abrégé du Dictionnaire de LITTRÉ. Paris: Gallimard et Hachette. 1959.

Burchfield, R. W. *A Supplement to the Oxford English Dictionary*. Vol. I (A-G) 1972.

_____. *A Supplement to the Oxford English Dictionary*. Vol. IV (Se-Z) 1986.

24) 表2に挙げたように、イギリス英語で10億の意を表す語として *milliard* があるが、*LGEU* (1988) は、同語は現代英語では現実には用いられない、としている。*Billion* が10億の意で用いられるようになったので、同語を必要としなくなったと考えられよう。同時に、*PEU* (1980) と *Harraç's* (1990) の定義も参照。

COLLINS ENGLISH DICTIONARY, Third Edition. Glasgow, U. K.: Harper Collins. 1991.

Craigie, Sir William A. and James R. Hulbert. *A Dictionary of American English on Historical Principles*. Volume I. Chicago, Ill.: Univ. of Chicago Press. 1938.

Dauzat, Albert. *Dictionnaire Étymologique de la Langue Française*. Paris: Larousse. 1938. [DELF]

The Encyclopedia Americana. Volumes 3, 27. Danbury, Conn.: Grolier. 1987.

Encyclopædia Britannica. Volume 23. Chicago, Ill.: Britannica. 1970.

伊吹武彦他編『仏和大辞典』東京:白水社, 1981。

貝塚茂樹・藤野岩友・小野忍編『角川漢和中辞典』角川書店, 1959。

『研究社新英和大辞典』(第5版)東京:研究社, 1980。[『研究社大英和』]

『研究社新和英大辞典』(第4版)東京:研究社, 1974。[『研究社大和英』]

『国語大辞典 言泉』東京:小学館, 1986。

New Encyclopædia Britannica. Volume 19. Chicago, Ill.: Britannica. 1980.

『日本語大辞典』東京:講談社, 1989。

『日本国語大辞典』第9巻, 第10巻, 東京:小学館, 1974。

『日本国語大辞典』[縮刷版]第5巻, 東京:小学館, 1980。

PETIT LAROUSSE Paris: Larousse (7^e tirage). 1959, 1961.

Robert, Paul. *Le Grand Robert de la langue française*, dictionnaire alphabétique et analogique de la langue française, 2^{ème} édition, entièrement revue et enrichie par Alain Rey. 9 vol. Paris: Le Robert. 1984-85. [ROBERT²]

『世界大百科事典』第7巻, 9巻, 16巻, 東京:平凡社, 1981。

『世界大百科事典』第14巻, 20巻, 東京:平凡社, 1988。

R. シンチンゲル, 山本明, 南原実編『独和広辞典』東京:三修社, 1986。

『小学館英和中辞典』東京:小学館, 1980。

『小学館独和大辞典』東京:小学館, 1985。

6,000 Words, A Supplement to Webster's Third New International Dictionary. Springfield, Mass.: G. & C. Merriam. 1976.

Skeat, Walter W. *An Etymological Dictionary of the English Language*, 4th Edition. Oxford: Clarendon Press. 1910.

鈴木信太郎, 中平解他『新スタンダード仏和辞典』東京:大修館書店, 1987。

12,000 Words, A Supplement to Webster's Third New International Dictionary. Springfield, Mass.: G. & C. Merriam. 1986.

Webster, Noah. *An American Dictionary of the English Language*. Thoroughly revised, and greatly enlarged and improved, by Chauncey A. Goodrich, and Noah Porter. Springfield, Mass.: G. & C. Merriam. 1872. [ADEL]

参考書

- Baugh, Albert C. and Thomas Cable. 1978. *A History of the English Language*, 3rd Edition. New York: Prentice-Hall.
- . 1981. 永嶋大典他訳『英語史』東京：研究社出版。
- Bradley, Henry. 1968. *The Making of English*, 2nd Edition, Revised by Simeon Potter. London: Macmillan.
- Central Statistical Office. 1991. *Economic Trends*, No 457, November 1991. London: HMSO.
- Central Statistical Office. 1992. *Economic Trends*, No 459, January 1992. London: HMSO.
- Copperud, Roy H. 1980. *American Usage and Style, The Consensus*. New York: Van Nostrand Reinhold.
- Evans, Bergen and Cornelia Evans. 1957. *A Dictionary of Contemporary American Usage*. New York: Random House. [DCAU]
- Foreign & Commonwealth Office. 1991. *Britain 1991, An official handbook*. London: HMSO.
- Ichikawa, S. 1968. (市川繁次郎)『数と量』(英語の語法 表現編 第1巻)東京：研究社出版。
- Ishibashi, K. (石橋幸太郎) et al. (eds.) 1966.『英語語法大事典』東京：大修館書店。
- Jespersen, Otto. 1938. *Growth and Structure of the English Language*.
「Billion は「10億」か「1兆」か」『時事英語研究』第35巻第4号(1980年7月)東京：研究社出版。
- Morris, William and Mary Morris. 1962. *Dictionary of Word and Phrase Origins*. Volume I. New York: Harper & Row.
- . 1975. *Harper Dictionary of Contemporary Usage*. New York: Harper & Row.
- Nagano, I. et al. 1983. (長野格他)『商業英語クエスチョン・ボックス』東京：大修館書店。
- Nakama, K. (中間敬弼) 1983.『商業英語の語法』東京：大修館書店。
- Otsuka, T. (ed.) (大塚高信編) 1970.『新英文法辞典(改訂増補版)』東京：三省堂。
[『英文法辞』]
- Otsuka, T. and F. Nakajima (eds.) (大塚高信, 中島文雄監修) 1982.『新英語学辞典』東京：研究社。
- Otsuka, T. and T. Konishi (eds.) (大塚高信, 小西友七共編) 1973.『英語慣用法辞典(改訂版)』東京：三省堂。
- Quirk, Randolph. "A World of Words," *The Times Literary Supplement*, 22

October 1976.

Terasawa, Y. (寺澤芳雄) 1978. 「語源研究と印欧比較言語学」『言語』第7巻第11号 (1978年11月)。

Watanabe, T. et al. (渡辺登士他) 1981. 『英語語法大事典・第3集』東京：大修館書店。

Webster's Dictionary of English Usage. 1989. Springfield, Mass.: Merriam-Webster.